

有機栽培ブロッコリー 収量 1 トン達成

当センターでは、露地での加工向け有機栽培ブロッコリーの実証試験に取り組んでいます。有機 JAS 規格適合農薬(注)による適期防除等により、慣行栽培並みの 10a 当たり約 1 トンの収量が得られることが分かりました。

本県では、有機栽培ブロッコリーの産地化へ向けた取り組みが始まっています。そこで当センターでは、令和 3 年度から慣行栽培並みの収量を得るため、病虫害対策等栽培技術の確立を目的に実証試験を行っています。

令和 4 年度は‘おはよう’と‘夢あたる’の 2 品種を用いて、秋作の栽培実証を行いました。その結果、両品種とも 10a 当たり約 1 トンの収量が得られ、慣行栽培と同水準となり、花蕾重はそれぞれ 367g、431g と十分な重量でした(表 1, 図 1)。

この年は、10月にチョウ目の発生が確認されたため、有機 JAS 適合農薬を用いた防除を 2 回行ったところ、被害は見られませんでした。

今後は収穫期間の拡大が可能となるように、秋冬作および春作型の導入による、長期リレー出荷の栽培実証を行い、有機栽培ブロッコリーの産地化につながる研究をすすめていきます。

(注)有機 JAS 規格適合農薬：「有機農産物の日本農林規格」において使用が認められている「別表 2」の農薬。

表 1 収量及び花蕾重(2022)

品種名	収量 (t/10a)	花蕾重 (g/個)
おはよう	0.94	367
夢あたる	1.1	431

8/9 播種、9/16 定植
2,560 株/10a
畝は黒マルチ被覆、防虫ネットの被覆なし
収穫期間 11/28~12/5



図 1 花蕾の状態(加工用向け)

※スケールは 15 cm

問い合わせ先：栽培研究部有機農業科(担当:松本樹人)

TEL 0853-22-6982

E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp